

平成28年度
文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)



事業報告書2016

津田塾大学
女性研究者支援センター

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

津田塾大学は、電気通信大学、日本電信電話株式会社(以下、NTT) 先端技術総合研究所の3機関で連携し、光、ナノテク、情報・通信分野の最先端をダイバーシティの中核である女性研究者の活躍によって開拓し、豊かなコミュニケーション社会を実現する「**コミュニケーション・フロンティア**」の創成を目指します。

女性研究者の研究能力向上、女性が国際的な研究リーダーとして評価されるような研究、女性研究者の発掘・大学教職員の意識醸成・研究環境の整備などに各機関が取り組むとともに、3機関によるダイバーシティ推進会議を開催し、連携した取組としてこれらの活動を活性化し、共同研究を実施していきます。

コミュニケーション・フロンティアの創成

ジェンダーをはじめとする人間の多様性
および領域を超えた知の統合を基盤とした
新たなコミュニケーション社会を作る
ための創造的資源(るつぼ)

Women in Communication Frontier (WCF)

- コミュニケーション・フロンティアに寄与する女性たちの様々な活動総称。
- WCF並びに協同研究に関する検討・打合わせの場として、電気通信大学にリサーチラボを設置。

連携
機関

NTT先端技術
総合研究所

産業界の立場から
教育研究機関と協働で
次世代コミュニケーション技術を切り拓く

総括責任者:佐藤良明 所長



実施責任者:神好人 研究推進担当部長

企画部

本事業の運用面を担当支援

先端・融合・横断領域の

Women i

学長挨拶

津田塾大学では、“Make a Difference”というフレーズを繰り返し発信し、リーダーシップを発揮して社会に新しい流れをつくり出す、バイタリティ溢れる女性をそだてるという方針を強調しています。本事業を通して、さらに多彩な分野で活躍できる女性研究者が輩出することを期待しています。21世紀の社会の課題を的確に把握しつつ、研究対象にねばり強く取り組み、より良い社会の実現に貢献する、気概ある女性研究者の育成に邁進してまいります。

津田塾大学 学長 高橋 裕子



目 標

津田塾大学では、持続的な女性研究者の研究環境改善を目的として次の3点の目標を掲げています。

A) 女性研究者比率の維持と上位職における比率の向上

- 教授クラスの女性研究者比率を50%以上にする。
- 自然科学分野における女性研究者比率を33%以上にする。

B) 大学院進学率の向上(裾野拡大)

- 現状より10%増の25%超を目指す。

C) 女性研究者の研究力向上のための支援体制の充実

- 科研費申請率が50%を超えることを目指す。

これらの目標を実現するために、海外からの女性客員教員の継続的な招聘によるネットワーキングの維持、公募に応募する女性研究者の増加のための広報および情報発信力強化、競争的研究資金の獲得に向けた支援体制の充実に係る取り組みを実施します。

代表
機関

電気通信大学

コミュニケーション・フロンティア

創成の中核を担う

総括責任者:福田喬 学長



実施責任者:由良恵二 男女共同参画・ダイバーシティ戦略室長

新設

男女共同参画・ダイバーシティ戦略室

- 本事業の中心的な推進組織。既存の女性研究者支援室と男女共同参画推進部を改組
- 室長、特任准教授2名、事務補佐員3名で構成

連携
機関

津田塾大学

女子学生の研究者育成、

次世代・理文融合

ダイバーシティコミュニティ拡大を担う

総括責任者:高橋裕子 学長



実施責任者:小舘亮之 女性研究者支援センター長

女性研究者支援センター

本事業の運用面を担当支援

ダイバーシティ推進会議

3機関の総括責任者、実施責任者、担当者等から構成される会議体

PDCAサイクルによる事業推進

共同研究開発



Communication Frontier (WCF)



知の交流 人材の交流

外部評価委員会

事業内容とその進捗状況について客観的評価を受け、必要な改善を行うため、外部評価委員会を設置

センター長
挨拶

津田塾大学には、創立以来、女性のリーダーシップを育んできた長い伝統があります。女性研究者支援センターを設置して9年目の本年度、本事業において電気通信大学、NTT先端技術総合研究所と連携して「コミュニケーション・フロンティア」の創成を目指すと共に、女性研究者のリーダーシップを育むための具体的な環境整備に積極的に取り組みます。

女性研究者支援センター長 小舘 亮之



ダイバーシティ研究環境整備のための取組

研究スタートアップ支援事業

当年度科研費の不採択者や申請資格のなかった若手研究者を支援し、次年度の外部資金獲得を推進する。

【支援対象】 研究開始年度の4月1日現在39歳以下の専任教員(助教を含む)ならびに本学所属の研究者で、申請者自らが、主となって行う研究であることを条件とする。

研究支援員配置プログラム

妊娠、出産、育児、介護等により研究活動の継続が困難あるいは十分な研究時間が確保できない研究者に対し、研究支援員を配置し、研究活動の低下防止を図る。

【支援対象】 専任教員(助教を含む)ならびに本学所属の研究者で、条件を満たしている方。

無料託児

シンポジウムやセミナー開催時に、お子さんを無料で預かり、研究者の参加を促す。

英文校閲費用助成事業

学術論文への投稿や学会発表の英文校閲にかかわる費用を助成。

【支援対象】 研究開始年度の4月1日現在39歳以下の専任教員(助教を含む)ならびに本学所属の研究者。ただし、申請者本人が筆頭著者及びコレスポンディング・オーサーとして発表する場合に限る。

ロールモデル集作成

学生・若手研究者のロールモデルとなる各機関で活躍する女性研究者を取り上げ、研究テーマ、研究の魅力、今後の女性研究者としてのビジョンなどを小冊子にまとめた。

女性研究者の研究力向上のための取組とそれを通じたリーダー育成のための取組

◇技術ワークショップ Global Technology Outlook【NTT】

- 日時：2017年1月13日(金) 10:00～19:00
- 場所：NTT先端技術総合研究所(神奈川県厚木市)

「デザイン思考を活用し、デジタルネイティブの価値観やライフスタイルを理解することで新たなビジネスの切り口を見つける」をテーマに、大学生と研究者が一緒にワークショップを実施しました。本学からは、女性研究者3名、男性研究者2名、大学院生2名、学部生3名が参加しました。ワークショップでは、電気通信大学、NTT先端技術総合研究所からの参加者と共に5-6名1チームに分かれて、現状のICTサービスの利用トレンドについて整理したのち、将来のサービスについての

提案と発表を行いました。Visual Thinkingという新しいデザイン手法や、専門や経験の異なるメンバーによる議論の進め方について体験的に学ぶ貴重な機会となりました。



女性研究者の上位職への積極的登用に向けた取組

電気通信大学、NTT先端技術総合研究所、津田塾大学に在籍する 女性研究者がリーダーとなって共同研究を行います

【助成対象】 3 機関に在籍する常勤研究者による連携研究プロジェクト。女性研究者がリーダーとなり、2 機関以上の女性研究者が連携して実施する研究（単独機関内での研究は不可）に限定。

【助成趣旨】 連携研究プロジェクトの助成を行うことを通じて、女性研究者の研究力向上、リーダーシップの育成を図る。本研究プロジェクトの実施が、競争的資金を獲得した研究に展開されることを期待。



選定プロジェクト一覧 (2017年1月現在)

番号	研究参加者一覧(* 研究リーダー)	研究課題名/内容
1	村山優子*(津田塾大学)、 山本佳世子(電気通信大学)	◆災害コミュニケーションシステムの研究開発 災害支援に必要な情報は、避難警報のための避難情報、安否情報やライフライン情報、災害行政のための避難所の被災者情報、避難所への物資供給のための需要や供給の情報や災害弱者などへの対応のための医療情報等が挙げられる。これらの情報処理について需要の調査を実施し、対応策を検討し、必要なシステムの提案を行い、試作システムの実装・評価を行う。震災での支援経験から、人は使い慣れたシステムを利用することが判明しているため、できるだけ既存の技術を取り入れる。
2	稲葉利江子*(津田塾大学)、 山下直美(NTT)	◆食における多言語・異文化間コミュニケーション支援システムの研究開発 近年、訪日外国人数の大幅な増加に伴い、外国人を受け入れる環境整備の課題解決が求められている。その課題のひとつに、多様な食習慣への理解および対応の不足がある。そこで、本研究では「食」に関する多言語間・異文化間の問題を解決することを目的とし、ユーザ中心設計に基づいた支援システムの提案および開発を行う。
3	佐々木啓子*、椿美智子、 赤澤紀子(電気通信大学)、 高橋裕子、渡邊あや(津田塾大学)	◆Wellbeing視点も加味した理工系女性のキャリア・パスにおける大学院教育の位置付けに関する実証的研究 すでに大学院を修了して、研究職あるいは、企業での研究・開発部門等でキャリアを形成した理工系の女性に対して聞き取り調査を実施すると同時に、卒業生・修了生アンケートを実施することで、女性のキャリア・パスにおいて、重要な進路決定の判断がどのようになされたか、その促進要因と阻害要因を明らかにすることを目的としている。

シンポジウム

◇女性研究者のリーダーシップ育成の組織的支援
—情報通信技術分野の学会における活動から—
Organizational Support for Leadership Development of Women in ICT

- 日時：2017年2月20日(月) 13:00～17:00
- 場所：津田塾大学 千駄ヶ谷キャンパス 津田ホール T101 & T102

本シンポジウムでは、情報通信分野の大規模な国際学会・業界団体の関係者を招き、各団体におけるリーダーシップをもった女性研究者の育成に関わる活動についてご講演いただきました。また、日本の学会関係者も招き、パネルディスカッション形式で、今後の組織的支援について意見交換を行いました。

最初に、IEEE (Institute of Electrical and Electronics Engineers) の女性部会IEEE-WIE(<http://wie.ieee.org>)の会長を2015-2016年に務めた橋本隆子先生(千葉商科大学)に「IEEE WIE の目的とグローバルに広がる活動("IEEE Women in Engineering Vision and Global Activities")」と題する講演をいただきました。

IEEE-WIE の世界規模の活動において、日本以外のアジア圏で会員数が増え、活動が活発に行われていることが紹介されました。次に、ACM(Association for Computing Machinery)の女性部会 ACM-W(<http://women.acm.org>)の Australian Ambassador として活動された Catherine Lang 先生(La Trobe University)は、“ACM-W: Objectives and Activities”と題する講演の中で、ACM-W の活動を各国で広めるために行ってきた活動について、オーストラリアでの活動事例について紹介されました。最後に CRA (Computing Research Associates)の下で CRA-W(<http://cra.org/cra-w>)の共同会長をされている、Nancy Amato 先生(Texas A&M 大学)に、“CRA-W; Objectives and Activities”と題する講演をいただきました。CRA-W では研究者や大学等の教員が自発的に活動し、女性研究者のさまざまなキャリア形成時期に合わせた幅広いメンター・プログラムを提供しており、その効果についても高く評価され、アメリカ国立科学財団(National Science Foundation)からも支援を受けていることなどが紹介されました。

パネルディスカッション「これからの組織的支援のあり方について」では、電子情報通信学会元会長の酒井善則先生(放送大学)と、情報処理学会元理事の中野美由紀先生(産業技術大学院大学)も加わって、招待講演者と活発な意見交換を行いました。日本、アメリカ、オーストラリア、アジア各国における文化の差異、各団体の社会的な役割の違いに関する話題がいくつか取り上げられ、会場からも熱心なコメントや質問がありました。とくに、日本の参加者から「さまざまなワークショップをはじめ、CRA-W



の関係者が女性研究者支援の活動に積極的に参加するのはなぜですか?」という質問に対して、Amato 先生が「CRA-W のメンバーとして活動することに対する社会的評価が高く、メンバーになりたい、いろいろなイベントを企画したいという希望者が多い」との回答がありました。

これらの講演とパネルディスカッションにより、情報通信分野の大規模な国際学会・業界団体では組織的かつ計画的なリーダーシップを持つ女性研究者の育成のための活動を積極的に展開中であることを知るとともに、本事業においてもこれらの先行する活動で得られた知見に基づいた活動を展開していきたいと考えています。

なお、シンポジウムの参加者は42名で、アンケートの回答では、今回の内容について、非常に好評価をいただきました。今後は、これらの先行事例について、その方法論など、より具体的な内容を学び、実践につなげていく計画です。

シンポジウム講師紹介



橋本 隆子 (Takako HASHIMOTO)

千葉商科大学経済研究所所長、同商経学部教授。
IEEE Japan Council 理事。日本データベース学会理事。IEEE Membership Recruitment and Recovery Committee Chair (2017)。
IEEE Women In Engineering (WIE) Chair (2015-2016)。



Dr. Catherine LANG

Associate Professor in the School of Education, La Trobe University, Melbourne (Australia) .
ACM-W Australian Ambassador (2005-2011) and the International Committee Liaison for the ACM's Special Interest Group for Computer Science Education (SIGCSE) for 2012 and 2013.



Dr. Nancy M. AMATO

Regents Professor and Unocal Professor of Computer Science and Engineering, Texas A&M University(U.S.A).
CRA Board of Directors (2014-2017), Co-Chair of CRA-W (2014-2017).



酒井 善則 (Yoshinori SAKAI)

放送大学東京渋谷学習センター長/特任教授
東京工業大学名誉教授、一般財団法人日本データ通信協会理事長、元電子情報通信学会会長。



中野 美由紀 (Miyuki NAKANO)

産業技術大学院大学教授
情報処理学会元理事 (2011-12年)、情報処理学会Info-WorkPlace委員会委員 (2006年～)。
日本データベース学会理事。ACM SIGMOD Japan Chapter Chair。電子情報通信学会フェロー。

シンポジウム

◇キックオフ・シンポジウム【電気通信大学】

「コミュニケーション・フロンティア女性研究者が切り開く
豊かなコミュニケーション社会」

●日時：2017年1月30日(月) 13:30～17:00

●場所：電気通信大学(東京都調布市)

日本IBM株式会社フェローの浅川智恵子氏と国立研究開発法人科学技術振興機構プログラム主管の山村康子氏を講師に迎え、キックオフシンポジウムを開催しました。当日は3機関以外からもダイバーシティ研究環境実現に関心をもつ約120人が参加しました。基調講演では、浅川氏より、ご自身のご経験に基づくダイバーシティの高い研究環境下でこそ生み出される技術についてのお話、山村氏からは政府が推進するダイバーシティ研究環境実現に関する取り組みとそのねらいについてのお話がありました。基調講演終了後は、3機関のリーダーによるパネル討論が行われ、本学からは高橋裕子学長が本事業において目指すべきゴールとこれに向けた具体的な取り組みの計画が示されました。



平成28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
電気通信大学・津田塾大学・NTT先端技術総合研究所

平成28年度
キックオフ・シンポジウム
コミュニケーション・フロンティア
女性研究者が切り開く
豊かなコミュニケーション社会

講演
浅川 智恵子 (IBM 株式会社 電算機開発研究所 専任フェロー)
「リアルワールドアクセシビリティへの挑戦」
山村 康子 (国立研究開発法人科学技術振興機構 プログラム主管)
「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブの目的と
プロジェクトへの期待」

基調講演
浅川 智恵子 (IBM 株式会社 電算機開発研究所 専任フェロー)
山村 康子 (国立研究開発法人科学技術振興機構 プログラム主管)
高橋 裕子 (電気通信大学 学長)
佐藤 良明 (NTT 先端技術総合研究所 所長)
浅川 智恵子
山村 康子

パネリスト
小嶋 裕子 (NTT 先端技術総合研究所 所長)
高橋 裕子 (電気通信大学 学長)
佐藤 良明 (NTT 先端技術総合研究所 所長)
浅川 智恵子
山村 康子

3機関のトップが大いに盛り上げ
セデレータ 小嶋 裕子氏 (電気通信大学 特任教授)
パネリスト 高橋 裕子氏 (電気通信大学 学長)
佐藤 良明氏 (NTT 先端技術総合研究所 所長)
浅川 智恵子氏
山村 康子氏

参加費無料 無料化対応
15:00(開場)
17:00(閉場)

2017年
1月30日(月)
13:30～17:00
電気通信大学
8棟2階202号室

主催 電気通信大学・津田塾大学・NTT先端技術総合研究所
協賛 電気通信大学 津田塾大学 NTT

お問い合わせ・お申し込み
電気通信大学 女性研究者支援室
〒182-8585 東京都調布市調布1-5-1
Tel: 042-443-8727
E-mail: ge-staff@nue.ac.jp
http://www.ge.ac.jp/over/

津田塾大学
女性研究者支援センター

〒187-8577

東京都小平市津田町 2-1-1

E-mail:jks2008@tsuda.ac.jp

<http://cwr.tsuda.ac.jp/>